

Hello! FUJISEI

No.246

「人口ピラミッド」ってご存じでしょうか？ 中央に縦軸を引き、底辺を0歳にして頂点を最高年齢者として年齢を刻み、左右に男・女別に年齢別の人口数または割合を棒グラフで表した「年齢別人口構成図」のことを言います。

通常は、出生数が多く、死亡等により、だんだん年齢を重ねていくうちに人口が少なくなるため、三角形のピラミッド状の形になることから、こう呼ばれていますが、医療の発達や少子・高齢化の影響により、その形状が変化します。

我が国の人口ピラミッドは、戦後の昭和25年までは、若い年齢ほど人口が多く、すその広い「富士山型」でした。しかし、昭和25(1950)年以降、出生数が減少し、昭和35(1960)年には人口減退を示す「つぼ型」に近くなり、その後、昭和30年代終わり頃から第2次ベビーブームの40年代後半にかけて出生数がやや増加したため、ピラミッドのすそが再び広がり「星型」に近くなりました。その後は、昭和48年をピークに出生数が再び減少傾向となりました。

現在の人口ピラミッドは、過去における出生数の急増減、たとえば昭和20(1945)～21(1946)年の終戦に伴う出生減、昭和22(1947)～24(1949)年の第1次ベビーブーム、昭和25(1950)～32(1957)年の出生減、昭和41(1966)年の丙午（ひのえうま）

人口ピラミッド

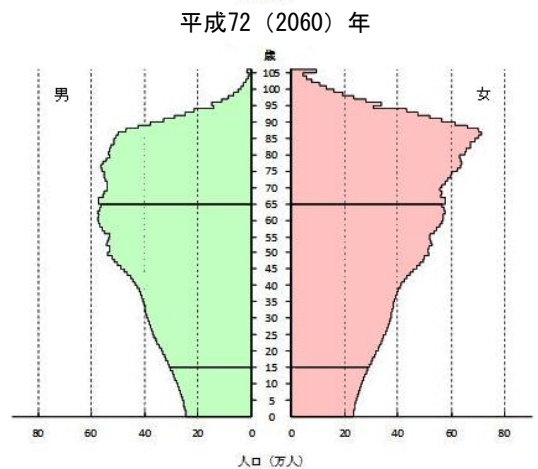
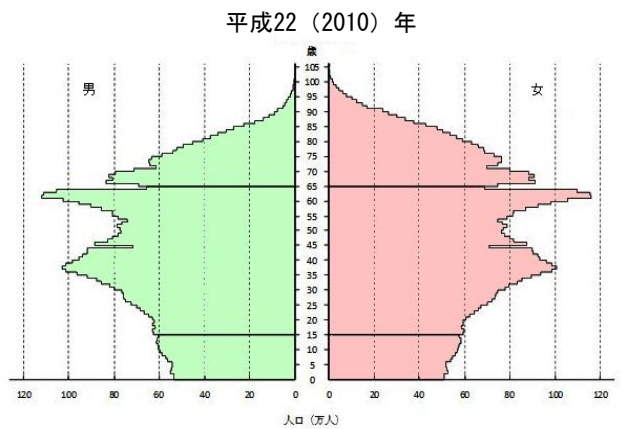
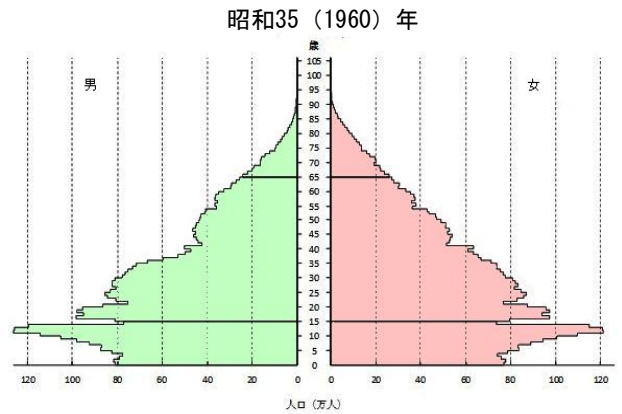
2060年には老年人口 40%の超高齢社会に

の出生減、昭和46(1971)年～49(1974)年の第2次ベビーブームとその後、出生減などにより、著しい凹凸を持つ「ひょうたん型」となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」によると、このまま推移すると、平成72(2060)年の人口ピラミッドは両手を広げたような形になるそうです。そして、その時の総人口は8,673.7万人となり、平成22(2010)年には23%であった65歳以上の老年人口が40%になるといわれています。

なにかと話題になる少子・高齢化ですが、医療・年金といった社会保障、雇用問題、税制など様々な部分に影響を及ぼし、国の財政面でも深刻な事態が想定されるため、将来に向けて制度改正が検討・実施されています。

我が国の人口ピラミッドの変化



国立社会保障・人口問題研究所
「人口統計資料集2014年版」より

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル